

# そらうがく

(No. 51)

27.12.7 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



## 子供の心に残る総合的な学習の時間を

総合的な学習部長  
清水 範彦

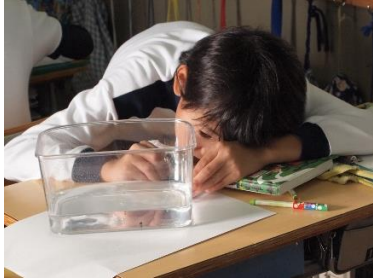
「六年間生活をしてきた美合小学校では、総合的な学習の時間の一環で、蛍の幼虫の飼育に取り組んでいます。四年生になった私にも、その機会が与えられました。受け取ったのは、小さな虫かごでした。中には、目をこらさないと見過ごすような、小さな幼虫が二匹いました」

今年の中学生の主張コンクールで奨励賞を受賞した美合小学校三年の生徒Aの作文の一部です。

美合小学校では、昭和五十二年からゲンジボタルの保護活動に取り組んでいます。当時は、総合的な学習の時間がなかったため、ボタルの幼虫を飼育し観察することが、主な学習だったと推測できます。

現在は、四年生がマイボタルとして、ボタルの幼虫を飼育しています。そして、昨年度は、「ボタル舞う美合学区を守ろう」というテーマで、幼虫を観察するだけでなく、子供一人一人が、課題を決めて追究しました。

児童Bは、「川の水がよくなる原因」という課題で、家庭排水について詳しく調べました。そして、特に下水が完備されていない地区では、できるだけ家庭から出る水の汚れを減らすことが、山綱川の環境を守っていくことにつながることを発表し、みんなに協力を訴えました。児童Cは、「水



を大切にエコアクション」という課題で、水を中心にした環境問題について追究しました。

さて、学習指導要領の次期改訂の視点として、

子供たちが「何を知っているのか」だけでなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということであり、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるもの全てを、いかに総合的に育んでいくかということである。

として示されています。

新しい学習指導要領が目指しているものは、正に総合的な学習の時間が目指しているものです。

総合的な学習の時間が始まった当時、D小学校の五年生がカンボジアの地雷のことについて調べ、大学生になっても、地雷撲滅の活動を行っていたというのは有名な話です。また、障がいのある子供について追究した児童が、特別支援学校の教員になったということも聞きました。

各学校では、総合的な学習の時間に、岡崎の伝統産業や防災など、工夫を凝らした学習が進められています。その学習した内容が子供たちの心に残り、その道に進んでくれる子が出るような取組をしたいものです。

先述の生徒Aは、「私は、今、志望校合格という新たな目標に向かっていきます。どんな結果になろうと、私は、自分が輝けるように、与えられた時間を精一杯努力していきたいと思えます。あの小さな蛍が私に教えてくれたことを忘れずに」と

と結んでいます。

## 研究・研修報告

### ■授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

七月三十日(木)岡崎市総合学習センターにおいて、授業力・教師力アップセミナー基礎編を開催しました。

まず、北中学校(前任校・城北中学校)廣瀬浩司先生から、「二十年後の城北は大丈夫なのか?」という主題で地域を舞台に、協同的な学びを展開した実践を発表していただきました。学区を商業・観光の視点から探り、今後について考えさせることで探究心が育つことや、主体的な学びの必要性などに気付かせていただけました。

次に、恒例となった学年別フリートークでは、同じテーマで取り組んでいる学校の実践例や、学年ごとの悩みを出し合ったり話し合ったりすることで、今後の単元計画を見直すきっかけを得ることができました。

最後は、名古屋大学の久野弘幸先生に「総合学習の二十年を振り返り、これからの十年を展望する」というテーマで講演をしていただきました。総合的な学習が果たしてきた役割と、次期学習指導要領実施に照らし合わせての今後の方向性について学ぶことができました。

### ■三河教育研究会 夏季研修会

八月四日(火)に、市民会館・甲山会館において、三教の夏季研修会が開催されました。第一分科会では、小豆坂小の橋本椋太先生による「地域と共に学び、考える児童の育成『ハートフルプロジェクト』心のユニバーサルデザインを目指して」の実践を通して「の実践報告がありました。続いて、豊橋市立豊南小の小久保祐亮先生による「自ら探究し、ともに学び、ともに考える総合的な学習の授業『おいでよ!ぼくらのわんぱくの森』の実践報告がありました。

小豆坂小の橋本先生の実践では、子供たちが地域の方と繰り返し関わる中で、自分たちの住む町のよさに気づき、よりよい町作りを目指しているとする学習が展開されていました。子供の思考を可視化し、整理するための手だてとして、ウェビングマップやベン図など、様々な思考ツールを活用することで、追究意欲の高まりや話し合いの活性化が感じられる実践報告でした。

# 県教研報告

十月十七日(土)に行われた、愛知県教育研究大会に、お二人の先生が参加されました。

● リポートの発表は、テーマごとに三部に分けて行われました。【地域とかわり、地域への愛着を深める実践】の部では、地元の伝統技術(手延べ麵)を取り上げた中学校の実践や、地域の特徴を見つける取材活動をし、地域の人や場所とかわる中で抱いた思いをカルタで表現した小学校の実践などが発表されました。質疑の場では、地域の伝統をつなげていくことの難しさや、学びを発信する有効な手立てなどについての意見交換がなされました。どの地域にも魅力的な教材があり、その教材について子供と共に探究していく先生方の熱意が感じられました。他の二つの部では、身近な環境を調査する中で自分たちにできることを探究していく実践や、キャリア教育の視点から、「夢」をキーワードに、自己を見つめ夢に向かって努力する児童の育成を目指した実践発表がありました。

(大門小 尾崎めぐみ)

● リポートの内容をもとに「発信する場」「評価」「他教科との関連」「シンキングツールの利用」「ESDの視点を取り入れた単元計画」などについての討議が行われました。「発信する場」では、カルタや新聞での発信や行事と兼ねて場を設けた単元計画の紹介がされ、意見交換を行いました。討議を進めていく中で、ゴールを見通した単元計画を立てることにより、発信の方法や場が確保されていくことが明らかになりました。助言者の先生からは、単元計画を立てる際には、

- ① 学校の教育目標、子供の実態から育てたい子供の姿を明確にし、題材を子供の課題に落とす。
- ② 子供の実態に合わせて修正を加える。
- ③ 学校内で単元計画を共有し、資料として残す。

(矢作西小 兼子しずか)

# 研究発表報告

## ● 男川小学校研究発表会

十月七日(水)、岡崎市教育委員会委嘱による研究発表会が、男川小学校で開催されました。「ESDの視点に立つ教科学習の展開」相手意識をもって関わり合い、思考・判断・表現できる子供の育成」を研究主題として、各教科・領域の学習の実践を中核に据えて行われました。特色ある取組として、子供たちが、教材内容の「つながり」や周りの人々や社会、自然環境との「つながり」を意識できるように、「ESDカレンダー」と「重点単元指導計画」を作成し、有効に活用していることが挙げられます。そのことよって、子供たちの思いや考えをつないだり、広げたりしながら、思考力・判断力、そして、表現力を伸ばしていると感じました。

公開授業では、各学級共、継続的に関わってきた教材で授業が行われました。五年生の単元「日本の食料事情について調べ、未来を考えよう」は、社会科の「これからの食料生産とわたしたち」と総合的な学習の時間と関連付けて構成されていました。本時では、一人調べをしてきたことを出し合いながら、「関わり合う」活動場面が展開されました。「資料を使って前に出て発表したいのですがいいですか?」と黒板のところで説明をしたり、場所を移して側面掲示を指示棒で指しながら補足説明を加えたりし、「資料を活用する力」「わかりやすく伝える力」が身に付いていることに感心させられました。

助言者の田村学先生からは、次期学習指導要領への移行を見据え、「アクティブ・ラーニング」の視点、「カリキュラムマネジメント」の視点で、各学校の実践や研究のあり方を見直していくこと、中でも、一人調べで得た情報(INPUT)を発信(OUTPUT)につなげる「整理・分析」の過程、そして、振り返りの活動が重要な役割を果たすことをご指導いただきました。



# 岡崎総合的な学習研究会の活動報告

## 矢作中学校 高沢 秀昭

七月二十六日(日)午前九時三十分より、「愛知県千町野外教育センター」において岡崎総合的な学習研究会 & 生活科道場が開かれました。十五名の方にお集まりいただき、額田林業クラブ会長の山本恵一さんはじめ、同林業クラブのメンバーの方を講師に招いて、「水源林を守る間伐体験から学ぶ」をテーマにフィールド研修型の学習会を行いました。

最初に、山本さんから「森林の機能」についてお話を聞きました。森林は、木材などの生産のほかに、良質な水を育む「水源涵養機能」、二酸化炭素の吸収・貯蔵などの「生活環境保全機能」、野生鳥獣の生息場となる「保健分化機能」などの多面的な機能があることを知りました。

次に三つのグループに分かれ、樹木の間伐体験に挑戦しました。森へ入り間伐が必要な樹木を選びます。次に、事故防止や運びやすさなどの視点からどの方向に切り倒すかを考え、ワイヤーを張ります。そして、実際にチェーンソーで切り倒す体験をしました。アドバイスを受けたもの思うように切れ込みが入れられず、願う方向に切り倒すことができませんでした。改めて「熟練の技のすごさ」を目の当たりにしました。



その後、間伐した樹木をバームクーヘンのように小切りにし、お土産にいただきました。間伐体験をすることを通して、その作業の大変さから森林の手入れが十分に行われなければ現状を知ると共に、だからこそ手入れをしていかなければならない必要性を考える研修となりました。

### ★岡総研 今後の予定

\*一月十七日(日)於:二十七曲がり・S・S・S

『岡崎の歴史を体感しよう!』

\*二月二十日(土)・二十一日(日) 於:蒲郡荘

『合宿でここん語り合おう!』

このように、岡総研では様々な活動を行っています。多くの方の積極的なご参加をお待ちしております。